



市長 杉本 久雄
おすぎもと

スタートした第3次総合計画 魅力あるまちづくりに 全力で取り組む

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、経済学者の植田和男さんが第32代日本銀行総裁に就任され、また大学生の宮崎莉緒さんが「2023ミス・ユニバース日本代表」として世界に羽ばたき、中日ドラゴンズの村松開人選手は入団一年目から活躍するなど、本市出身の皆様が市民に明るい話題をもたらしてくれました。相良藩主であった田沼意次侯が、市制施行20周年の記念の年でもある令和7年の大河ドラマの主要人物として登場するという嬉しいニュースもありました。

さて、市では昨年、第3次総合計画がスタートしました。まちづく

りの理念を「RIDE ON MAKINOHARA 夢に乗るまち 牧之原」とし、5つの「重点戦略・プロジェクト」を中心に、当市にある強みを生かした住みやすい暮らしの創出、若者の住む魅力の向上に取り組む、まちづくりを進めてまいります。東名相良牧之原IC北側地区の開発では、造成工事の安全祈願祭が執り行われ、本格的な工事が始まりました。安全な施工と共に、商業・産業施設などの早期開業に向けて取り組んでまいります。

また、坂部地区への「道の駅」の整備においても、造成工事に着手し、3月に名称が決定します。目的地となる施設、立ち寄りたくなる施設を目指した魅力ある施設になるよう、令和7年4月のオープンに向け準備

を進めてまいります。さらに、県内で初めて「ZEB Ready」を取得し、通常のエネルギー消費量の50%以上の削減を実現した多目的体育館「Gas One (ガスワン) アリーナ牧之原」が今春完成します。市民の皆様にとっては、スポーツや交流の場としての利用だけでなく、災害時にも安心して避難できる施設でありますので大いに活用いただきたいと存じます。

私たちが愛するこのまちで、市民の皆様が希望を持って暮らせるよう、魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいりますのでご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新春を健やかに迎えのことと、お喜び申し上げます。

昨年は振り返れば、コロナ禍が沈静化し経済も復活の兆しを見せ始めていますが、一方、世界では紛争や地球温暖化の影響による災害も頻発に起きています。

その影響は、原油価格の高騰などによる物価上昇となっており、私たちの生活にも押し寄せています。

そのような中で、地域コミュニティの原点でもある地区の祭典が復活し、市内のあちこちで屋台の引き回しやにぎやかなおはやしが響き渡り、地域活性化の兆しが見られます。私たち市議会は、市民の皆様が豊かな生活が送れるよう、市民参加型

の施策により地域の活力や魅力を向上させ、将来にわたって持続可能なまちづくりを目指す必要があります。

市議会においては昨年、総務建設委員会が「持続可能なまちづくり」をテーマに沿岸部の活性化や空き店舗（空き家）の活用と商店街の活性化、有機農業の推進についての提言を市へ行いました。また、文教厚生委員会では「人口増加に繋がる魅力ある子育て施策について」をテーマにサーフィンを活用した施策や多年代で利用できる全天候型子育て支援施設について提言を行いました。今後も少子高齢化や人口減少など喫緊に迫った課題解決に向け、政策提言を行ってまいります。

何よりも議会を知ってもらうためには市民の皆様との対話を深め、議

会運営の効率化や市民参加を積極的に進める議会改革により、身近な議会づくりを目指してまいります。

このためには、議員一人一人が地域課題に対してしっかりと向き合い、大局的な視野を持って取り組んでいくよう努めてまいります。

市民が安心して住めるまち、帰って来たいまち、住んでみたいまちとなるよう、二元代表制としての市議会の役割を認識し、市民のための開かれた議会を目指します。

「去年今年 貫く棒の 如きもの」(高浜虚子)のとおり、信念を曲げることなく貫く姿勢で取り組んでまいります。

結びに、2024年が市民の皆様にとって良い年でありませうよう祈願して、新年のご挨拶といたします。



市長 村田 博英
むらたひろひで

一人一人の力を集め 大局的な視野で事に当たる

謹賀新年

2024年 年頭のごあいさつ

さがらサンビーチの初日の出 (以前のもの)